



金融教育の現場レポート



鹿屋市立鹿屋女子高等学校
新留 崇夫 教諭

学校、行政、企業が連携して 教育活動を行う地域環境

鹿児島県大隅半島で唯一の女子高校となる鹿屋女子高校は、1958年に開校し、487名（2022年4月7日現在）の生徒が普通科、情報ビジネス科（商業科）、生活科学科の3つの学科で日々学んでいます。鹿屋女子高校では資格取得に力を入れており、授業の進度を速めて検定の早期受験と受験の再チャレンジができるカリキュラムを編成し、全商9種目1級取得者数において2013年から5年連続日本一を達成しました。

今回お話をうかがった新留先生は、2019年度に鹿屋女子高校へ赴任し、課題研究、ビジネス基礎、簿記、原価計算、総合実践といった商業科目を担当しています。これまで各赴任校で商業教育におけるさまざまなキャリア教育を実践し、大学院長期派遣教員として鹿児島大学大学院で金融教育の研究をされた新留先生は、キャリア教育の必要性についてこう話します。

「キャリア教育は、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を養う教育です。このキャリア教育の実践が金融教育につながっていくことが、これまでの指導経験でわかりました。キャリア教育を学校教育で実現させるためには、地域と連携した体験的な学習が不可欠です。本校は、学校、行政、企業が良好な関係にある恵まれた環境下、とりわけ鹿屋市教育委員会の積極的なサポートによって、地域と連携した教育活動に力をいれています」。

地域と連携した教育活動は、鹿屋女子高校の大きな特色になっており、いくつかの例を紹介します。

◆外部講師を地域の人材から登用

「本校では多様な進路希望を実現させるため『総合選択制』というカリキュラムがあり、『医療事務』や『ブライダル』といった本校では専門外の講座も開設しています。また情報ビジネス科の課題研究でも専

地域貢献活動「キッズビジネスタウン」[®]

行政・企業等と連携した体験型活動で 商業教育におけるキャリア教育を学ぶ

「金融教育」は社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているのか、教育現場に立つ先生や授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、鹿児島県の鹿屋市立鹿屋女子高等学校（以下、鹿屋女子高校）で商業科目を担当し、「第18回金融教育に関する実践報告コンクール」で優秀賞を受賞した新留崇夫先生に、地域と連携したキャリア教育の体験型活動「キッズビジネスタウン」[®]の実践内容と、その学習効果についてお話をうかがいました。



新留 崇夫 教諭



キッズビジネスタウン®の打合せを行う実行委員会。鹿屋女子高校では情報の伝達にICT（パソコンなど情報端末を活用した教育）を積極的に利用する。

門性の高い講座があり、そうした講座では、その分野に携わっている地域の人を外部講師として活用しています。このような取組みは生徒にとって、業務に携わっている人から生の知識や経験を学べる貴重な体験になっていると思います。*

◆本校生徒による出前そろばん教室

「本校の生徒が、地域の小学校に出向き、そろばんを教える活動です。生徒たち自らがテキストを作成して、児童に授業を行います」。

◆キッズビジネスタウン®

「本校の生徒が行政や企業等と連携して、鹿屋市の小学生に就業体験をさせる地域貢献活動です。本校の生徒にとっては、体験型キャリア教育の学びの場となります」。

地域と連携して小学生に就業体験を行う キッズビジネスタウン®

キッズビジネスタウン®は、鹿屋女子高校（情報ビジネス科、生徒会、部活部員、教職員など）と鹿屋市の行政や企業（以下、外部協力団体）との連携を基盤に、商業教育におけるキャリア教育の体験型活動として、2015年度より実践されています。毎年2月に開催され、約800人の地域住民が集まるほど、鹿屋市の大きな行事になっていると言えるでしょう。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年度開催（第5回）を最後に一時中止。

キッズビジネスタウン®では、鹿屋女子高校校内をキッズビジネスタウン®という街に見立て、外部協力団体のサポートなどにより役所や銀行、商店などを模倣的にブースとして設置します。そして鹿屋市立の小学校に在籍する3年生以上の小学生が、ブースの中から「うどん屋で配膳」「消防署で消火活動」といった仕事を選んで就業体験を行い、イベント内で通用する通貨の「ハナ」を給料として得ます。その後、税務署で納税して、残りの給料を使って各ブースで買い物などの消費活動を行うというものです。

イベントの企画から運営は実行委員会が主軸となり、参加生徒たちは担当するブースの経営者として、その運営や小学生への職業指導を行います。外部協力団体と連携するブースでは、外部協力団体がスムーズに小学生に指導できるようにサポートを行うなど、さまざまな役割や業務を遂行します。高校生が小学生に金融や経済を地域と連携して伝えるこの活動は、学校におけるキャリア教育の実践に必要な「地域と連携した体験的な学習」に当てはまりますが、キッズビジネスタウン®ではキャリア教育の意識をより強く持たせていると、新留先生は話します。

「職場体験活動は、生徒に何を学ばせたかなど、学習計画が必ずしも十分でない『イベント型』が一般的です。しかし、それではキャリア教育としての学習効果が



キッズビジネスタウン®の仕組みは、社会の仕組みである「経済の循環」をイメージしてつくられている。就業体験の参加は事前の申込みが必要。

期待できません。キッズビジネスタウン®は『コンソーシアム型（複数の組織で行う協働活動）』のキャリア教育として、教育委員会など共催する外部協力団体と連携した体験活動の中で、身に付けさせたい能力を事前に定め、その計画に沿って運営しています。まず身に付けさせたいのは、おもてなしの心（ホスピタリティマインド）です。さらには『金融知識の習得と共に、企画から具現化までの実体験を通じた学習の深化』、『起業家としての責任感の育成』、『小学生へのサポートを通してコミュニケーション力の向上』、『任された役割を担うることによる当事者意識の醸成と問題解決能力の育成』といった能力を

身に付けることを目的としています。商業に携わる者として、質の高い接客力やそれを踏まえた企業運営の感覚はますます重要性を増しています。こういった力の育成が、今日求められる持続可能な社会の実現、そして多様性に配慮した社会の構築のために商業の分野から求められる能力になると考えています。

総合化した学習活動として学んできた知識と技術を発揮

キッズビジネスタウン®を運営する生徒たちの活動への取組みは、まず実行委員会の発足から始まります。実行委員会の役割は大きく、学校から伝達された運営方

針などを踏まえ、教職員と協力してスケジュールや予算の作成、広報活動、各ブースの店長との情報共有など多岐に渡ります。実行委員会は、学校の公募によって手を挙げた3年生を主体に約30人で運営されます。そんな鹿屋女子高校の生徒の特性について、新留先生はこう話します。

「高校生はこうした学校活動や役割を避けがちですが、本校の生徒はとて積極的に参加します。これは、普段からボランティア活動など地域と積極的に関わろうとする生徒が多く、これまでの地域と連携した教育活動が根付いているのではないかと思います。」

実行委員が決まると次に、ブース内容の決定です。教職員が検討して、運営可能な職業の選択肢を実行委員会に提案します。実行委員会はその提案内容を基に検討し、自分たちで最終的に決めます。ブースはそれぞれ、銀行や税務署などの「公共機関」、美容室などの「サービス」、うどん屋などの「飲食

■ 仕事ブースの一覧（第5回）

【公共機関】

キッズ銀行	キッズ税務署 〔鹿屋税務署〕	警察署 〔鹿屋警察署〕	消防署 〔大隅肝属地区消防組合中央消防署〕
道路パトロール隊 〔国土交通省九州地方整備局〕	自衛隊 〔防衛省自衛隊鹿屋島地方協力本部〕	クリーンセンター	

【サービス】

ネイルサロン 〔学校法人赤塚学園〕	美容室 〔鹿児島県美容専門学校〕	フェイス・ボディアート 〔鹿児島県理容美容専門学校〕	キッズ保育園 〔学校法人原田学園〕
リハビリテーション 〔鹿児島第一医療リハビリ専門学校〕	プログラミング開発(株) 〔KCS鹿児島情報専門学校〕	テレビ局 〔学校法人原田学園〕	キッズ新聞社
ラジオ局	縁日 ゲームセンター	ストラックアウト	占い館

【飲食店】

カレーライス屋	たこ焼き屋	チョコショップ	パン・ケーキ屋
ドリンクショップ	フランクフルト屋	パン屋	うどん屋

【工房】

パルーン工房 〔山形屋〕	缶バッチ工房	ブラバン工房	名刺工房
スライム工房	おもいで工房	ビーズアクセ工房	ミサンガ工房

毎年ブースの数も内容も変わる。〔 〕の名称は、そのブースの外部協力団体名。

針などを踏まえ、教職員と協力してスケジュールや予算の作成、広報活動、各ブースの店長との情報共有など多岐に渡ります。実行委員会は、学校の公募によって手を挙げた3年生を主体に約30人で運営されます。そんな鹿屋女子高校の生徒の特性について、新留先生はこう話します。

「高校生はこうした学校活動や役割を避けがちですが、本校の生徒はとて積極的に参加します。これは、普段からボランティア活動など地域と積極的に関わろうとする生徒が多く、これまでの地域と連携した教育活動が根付いているのではないかと思います。」

実行委員が決まると次に、ブース内容の決定です。教職員が検討して、運営可能な職業の選択肢を実行委員会に提案します。実行委員会はその提案内容を基に検討し、自分たちで最終的に決めます。ブースはそれぞれ、銀行や税務署などの「公共機関」、美容室などの「サービス」、うどん屋などの「飲食店」、ビーズアクセサリーなどの「工房」といったものがあり、参加するクラスと話し合っってブースを割り振っていくのです。

そして、各ブースの担当となった生徒たちは、商品販売のブースなら売価と売上設定を決め、損益分岐点を算出して材料を仕入れ、現金出納帳を作成して売上管理



体育館に設置したハローワークで子どもたちが仕事選び。各ブースで定員があり、人気の仕事はすぐ定員に。



消防署のブースでは、心肺蘇生法を学ぶ。教えるのは外部協力団体である地元の消防署員。



うどん屋のブース。こぼさないように真剣にうどんをよそう子どもにも、生徒が量や具材のバランスを指導する。



ネイルサロンのブースでは、地元の専門学校が外部協力団体としてネイルアートの仕方を指導する。人気のブースの一つ。

を行うなど、すべて自分たちで考え、運営していきます。

「キッズビジネススタウン[®]」は総合化した学習活動として、生徒が普段学んでいる知識や技術を発揮する場でもあります。ビ

ジネス基礎では『流通の仕組み』、簿記では『現金出納帳の作成』、原価計算では『損益岐点の算出による売価の設定』、総合実践では『接遇』など、キッズビジネススタウン[®]の運営に必要な知識や技術を生徒た

ちは授業で学んでいるので、教員は手助けをできるだけしません。授業でキッズビジネススタウン[®]を題材にして『これを覚えな』とブースの運営ができない』と伝えると、学びの姿勢に真剣さが出てくるのが見てわかります。

また、キッズビジネススタウン[®]を実践するうえで、学習効果を上げる工夫や注意点があります。

「キッズビジネススタウン[®]の運営について、次回の運営に携わる生徒たちへの引継ぎ資料は会計帳簿とタイムスケジュールくらいです。毎回自分たちで模索しながら、自分たちなりのキッズビジネススタウン[®]を考え運営することで、思考力、判断力、表現力、実行力の育成につながっています。こうした学習効果を維持するために、引継ぎ資料等の文書を単になぞって実践することのないように、教職員も生徒も注意する必要があります。」

キッズビジネススタウン[®]が終わると、体験した生徒たちに、さまざまな変化が現れると新留先生は話します。

「任された役割や業務を遂行したことで自分の強みや弱みをつかみ、進路や将来のイメージを描いたり、考えるきっかけになっている生徒が増加します。また、小学生への就業指導によって、責任感やコミュニケーション力が向上した生徒も見受けられます。そのほか、専門学校と連携したブースは、同業種への進路希望の生徒が担当

することも多く、協働学習によって希望進路への深い理解が生まれ、目標に向かって積極的に活動を始める生徒もいます。」

商業教育カリキュラムを活用してキッズビジネススタウン[®]を変革

新留先生は、今後のキッズビジネススタウン[®]の実践について、キャリア教育としてさらに意識づけるための仕掛け作りを進めています。

「現在のキッズビジネススタウン[®]は、生徒に身に付けさせたい能力については、金融広報中央委員会発刊の『金融教育プログラム』を活用して定義しています。一方、どの能力を身に付けたのかを評価する定義については、改善の余地があると感じています。今後は、2022年度より本校で実施していく^①商業教育カリキュラムを活用して、キッズビジネススタウン[®]での資質と能力を身に付けたのか明確にする学習評価の策定を行っていきます。そして『地域と連携した活動』、『生徒自らが考え、工夫し、解決する力の育成』、『生徒に思考させる環境作り』を念頭に置きながら、キャリア教育の要素を充実させたキッズビジネススタウン[®]に変革したいと思っています。私が優秀賞をいただいた実践報告コンクールで提案した商業教育カリキュラムを、商業教育の現場にいか根付かせていくか、キッズビジネススタウン[®]の場を活用しながら取り組んでいきたいと思っています。」

① https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/concours_kyoin/2021/pdf/21kyoin003.pdf (知るぽるとWEBサイト)